

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲	第	号
------	-----	---	---





氏 名 幸 村 州 洋

論 文 題 目

Effects of sedative antidepressants on prefrontal cortex activity during verbal fluency task in healthy subjects: a near-infrared spectroscopy study

(鎮静系抗うつ薬が言語流暢性課題実施中の健常被験者における前頭前皮質の活動に及ぼす影響：近赤外線スペクトロスコピーを用いた検討)

論文審査担当者

主査委員	名古屋大学教授 小川 豊昭	
委員	名古屋大学教授 山田 清文	
委員	名古屋大学教授 本城 秀次	
指導教授	尾崎 玄次	

論文審査の結果の要旨

近年、精神疾患の診断に、脳機能画像の一つである近赤外線スペクトロスコピー（NIRS）が有用であると言われており、精神疾患を持つ患者において、評価の指標となる酸化型ヘモグロビンの上昇が抑制されることがこれまでに繰り返し確認されてきた。NIRSの結果に対しては、年齢、性別、眠気、睡眠時間が影響を及ぼすことがこれまでに指摘されている。

しかし、精神疾患をもつ患者の多くが服用する向精神薬がどのように影響を与えるかについての報告はない。

本研究では、19人の健常成人男性に抗うつ薬の mirtazapine 15mg、trazodone 25mg、placebo のいずれかを連続投与した際に、言語流暢性課題の実施中に、どのように NIRS の結果が変化するかの評価を行った。





本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。

1. mirtazapine の連続投与 9 日目に、NIRS の複数のチャンネルにおいて、trazodone や placebo と比較して酸化型ヘモグロビンの上昇の割合が増加した。この際、NIRS の結果に影響する年齢、性別、眠気、睡眠時間に差異はなかった。
2. mirtazapine と trazodone とで上昇の割合が異なったのは、抗うつ薬の薬理学的特性の違いに起因していることが考えられる。
3. NIRS を用いて精神疾患の診断や脳活動の評価を行う際には、患者の服用する向精神薬も結果に影響を与え得ることを考慮する必要がある。

本研究は、精神疾患の診断を NIRS を用いて行うに際しての、重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	幸村州洋
試験担当者	主査 小川豊昭  山田清文  本城秀次  指導教授 尾崎信太郎 			

(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. 近赤外線スペクトロスコピー (NIRS) を用いて評価した、抗うつ薬ごとの前頭部への反応性の違いについて
2. 反応性の違いを引き起こした要因について
3. NIRSにより精神疾患の診断を行う際の留意点について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、精神医学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。